

## 自己評価・外部評価 評価表

平成30年度

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(1) 理念の明確化									
①	サービスの特徴を踏 まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者 等の在宅生活の継続」と「心身の機 能の維持回復」を実現するため、事 業所独自の理念を掲げている	○				法人全体で理念を共有し、月 1回の全体会議で確認してい る。	随時情報交換が出来ているこ とが分かった。
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のた めの取り組み	2	施設長と職員は、当該サービスの特 徴および事業所の理念につい て、その内容を十分に認識している	○				ヘルパー会議にて理念の確 認、質の向上及び内容につい て日々の事例を通して情報を 共有している。	理念が職員全体に浸透してい ることが感じられた。
		3	法人は、専門技術(アセスメント、随 時対応時のオペレーターの判断能 力など)の向上のため、職員を育成 するための具体的な仕組みの構築 や、法人内外の研修を受ける機会 等を確保している	○				偶数月は全体の職員研修があ り、奇数月は事業所内研修を 計画的に行っている。 外部研修も勤務調整等して参 加出来る様にしている。	職員の育成に積極的になり、 取り組んでいる様子が感じられ た。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]									
(2) 適正な人材の育成									
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	○				サービス提供責任者が同行訪問し、指導・育成に努めている。	先輩が後輩にきちんと指導出来ている事が感じ取れた。
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	○				同一建物内の一室にヘルパーステーションと訪問看護ステーションが配置されている為情報共有をその都度行っている。又月に1回の会議を介護職、看護職共に行っている。	出来ていると感じた。
(3) 適切な組織体制の構築									
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	○				利用者の性格、生活スタイル、こだわり、独居、夫婦2人暮らし、家族の係り等を考えながらシフト及び訪問者を組み立てている。	利用する方に合わせて職員配置している事が、説明から理解出来た。
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	○				2カ月に1回地域密着型の運営推進会議と合同に開催し多様な課題を検討し、会議で得られた意見・助言をサービスに反映している。	サービスに反映していることが分かった。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]									
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				利用者の状況に変化があればケアマネに報告。必要なときには担当者会議を開催し、関係者間で情報共有している。毎朝ミーティングの際に情報を共有している。	毎朝情報交換が出来ていることで、安心出来ると感じた。
(5) 安全管理の徹底									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	○				消防訓練を年2回、防災訓練を年1回行っている。緊急時の連絡網を作成している。月1回の衛生委員会を行い安全運転管理者を配置している。感染症の研修を行っている。	出来ていると感じた。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○				就業規則に、個人情報の取り扱いについて定め、周知徹底している。	出来ていると感じた。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価(Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	○				ケアマネの計画に添って個別計画を立てサービスを提供し、必要に応じてサービスの見直しを行っている。	出来ていると感じた。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	○				定期的にアセスメントを行い情報共有を行っている。	出来ていると感じた。
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	○				機能維持を目標に置いて、本人の持てる力を充分に発揮出来る様生活の中で、自立支援を行っている。	認知症で外出する方にどこまでもついて行き、きめ細かな対応が出来ていると感じた。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価 (Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>									
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	○				御本人のペースに合わせ、自然な最期を迎えて頂けるようにアセスメントを実施し、計画の作成を行っている。	家族への説明も丁寧に説明を行っているように思った。
<b>柔軟に対応</b>									
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	○				その都度柔軟な対応を心掛け、ケアマネに訪問看護師のアセスメントと合わせ報告、利用者が安心して生活出来るよう努めている。	良く出来ているように思った。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	○				訪問看護師のアセスメントと合わせ日々のモニタリングと、適宜計画へ反映させている。	随時対応が出来ている様に思った。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価 (Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>									
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	○				日々の状態変化を看護師に報告し、適宜サービスに反映出来る様に情報共有し医療と介護の連携を図っている。	反映出来ている様に思った。
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	○				利用者の緊急時の対応や終末期等の緩和ケアと一緒に実践しアドバイスをを行っている。	常に寄り添ってケアが行えている様に感じた。
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>									
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	○				サービス提供責任者が契約時に説明し、その都度状態変化があれば計画の見直しを行っている。	良く出来ている様に感じた。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>II 過程評価 (Process)</b>									
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>									
<b>(4) 利用者等との情報及び意識の共有</b>									
②	利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	○				サービス提供責任者が利用者及びキーパーソンにその都度説明している。	説明を尽くし良く対応が出来ている様に感じた。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	○				利用者の状況に変化があった時訪問介護員から報告を受け速やかに対応出来る体制を整え必要に応じ家族、ケアマネへ連絡、適宜サービスの見直しと情報共有を図っている。	良く出来ている様に感じた。
<b>2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント</b>									
<b>(1) 共同ケアマネジメントの実践</b>									
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	○				状態変化あればすぐにケアマネに報告して連携を取っている。又、共同で提供日時の調整を行っている。	良く連携が取れているように感じた。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	○				入居者の散髪の手配、プライベートヘルパー利用、法人全体の行事への参加等を調整している。	迅速に対応が出来ている様に感じた。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(1) 共同ケアマネジメントの実践									
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	○				適宜サービス担当者会議を開催している。 必要時にはヘルパーの方からサービス担当者会議の開催をケアマネに依頼している。	適宜出来ている様に感じた。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)						
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	○				入院時入院先の病院に介護サマリーを送付している。退院時退院カンファレンスへ参加し切れ目のないサービスを心掛けている。	個々に対応が出来る様に感じた。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント									
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献									
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)						
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案									
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○				2カ月に1回の運営推進会議にヘルパー職員が必ず参加し、参加出来なかった職員は会議録を見て情報把握に努めている。	よく実態把握に努めていると感じた。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	○				毎月の機関紙により地域に発信している。ホームページでも閲覧出来る。	せりりょう園の活動に参加して、初めて分かることが多いが、まだまだ地域には認知していない部分が多い、今後広報の余地あり。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
II 過程評価(Process)									
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画									
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画									
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している		○			外部研修に参加して、介護保険の変更があればその都度把握出来る様になっている。 住み慣れた地域で最期まで暮らせる様支援している。地域の活動に参加したりボランティアとの関わりを持ち行事等に参加し、地域との繋がりを持っている。	よく地域密着に配慮しており、地域の協力もあるようだが、より広報周知の余地がある。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	○				小学校の職業体験に介護職を派遣し、地域へ介護を発信している。 訪問エリアは加古川市とし、必要性があれば柔軟に対応している。	機会をとらえて地域と繋がりを持っていると感じた。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている <u>(※任意評価項目)</u>						

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況					
				できて いる	ほぼ できて いる	できていない ことが多い	全く できて いない		
<b>Ⅲ 結果評価(Outcome)</b>									
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	○				利用者が自然な形で最期を迎えられるように個別に計画し、利用者、家族に丁寧に説明し目標達成出来る様努力している。	それぞれの方が過ごし易く生活をしている様に感じた。
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				安心して利用者が在宅生活が送れるように寄り添ったケアを心掛けている。 随時サービス担当者会議を開催している。	運営推進会議で、家族の声を聴き喜びの声をよく聴く。せりょう園で過ごすことを家族の方が安心している様に感じた。